

.....

.....

.....

1

## 10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

|                        |                                                                                               |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| ○当事者 A                 | 年齢[ 28 ]歳、 勤続年数[ 6 ]年、 現場経験年数[ 5 ] 年、 階級[ 消防副士長 ]、<br>同様の活動 [ 頻繁 ]、 任務 [ その他：ロープブリッジ救出 1 番員 ] |
| ○当事者 B                 | 年齢[    ]歳、 勤続年数[    ]年、 現場経験年数[    ]年、 階級[    ]、<br>同様の活動 [    ]、 任務 [    ]                   |
| ○当事者 C                 | 年齢[    ]歳、 勤続年数[    ]年、 現場経験年数[    ]年、 階級[    ]、<br>同様の活動 [    ]、 任務 [    ]                   |
| その他<br>(当事者が 4 人以上の場合) |                                                                                               |

### 1 1. 事例発生経過。

|       | 誰(何)が | なにをした                                                     | その他・備考など        |
|-------|-------|-----------------------------------------------------------|-----------------|
| 経過 1  | 救助隊   | ロープブリッジ救出訓練の為、ブリッジ線を設定。                                   |                 |
| 経過 2  | 救助隊   | ロープブリッジ救出訓練を実施するため、展張力を確認（700kg）後、訓練開始。                   |                 |
| 経過 3  | 救助隊   | 休憩。                                                       |                 |
| 経過 4  | 救助隊   | ロープブリッジ救出訓練を再開。                                           | この時点で展張力の確認未実施。 |
| 経過 5  | A     | 訓練塔 B 塔にて他の隊員と要救助者救出側の訓練を開始。                              |                 |
| 経過 6  | A     | 訓練塔 B 塔での訓練を終了し、ブリッジ線の撤収作業の為、A を先頭に他の隊員 1 名と共にチロリアン渡過を実施。 |                 |
| 経過 7  | A     | A が訓練塔 A 塔壁面に頭部を激突。                                       |                 |
| 経過 8  |       |                                                           |                 |
| 経過 9  |       |                                                           |                 |
| 経過 10 |       |                                                           |                 |

【その事例発生時の状況について】

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。危険事象の対応方法を知らなかった。周囲の視界が確保できていなかった。指揮者が適切に指示しなかった。他隊(員)から適切な注意を受けられなかった。

### ○心理・体調について

a. あせりを感じていた

|                                       |     |
|---------------------------------------|-----|
| ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 | いいえ |
| ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。         | いいえ |
| ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。              | いいえ |

b. 注意力が欠如していた

|                                  |     |
|----------------------------------|-----|
| ・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。       | はい  |
| ・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。 | いいえ |

|                     |     |
|---------------------|-----|
| ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。 | いいえ |
|---------------------|-----|

c. 経験・知識が不足していた。

|                            |     |
|----------------------------|-----|
| ・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。     | いいえ |
| ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 | はい  |
| ・活動に対する経験が不足していた。          | はい  |

d. 心身の不調があった

|           |     |
|-----------|-----|
| ・体調が悪かった。 | いいえ |
| ・悩み事があった。 | いいえ |

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

|                     |     |
|---------------------|-----|
| ・装備・資機材自体に問題があった。   | いいえ |
| ・装備・資機材の使用方法が誤っていた。 | はい  |
| ・装備・資機材の対処能力を超えていた。 | いいえ |
| ・必要とする装備・資機材がなかった。  | いいえ |

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

|                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| ・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。       | いいえ |
| ・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |

g. 行動しにくい環境だった。

|                  |     |
|------------------|-----|
| ・狭隘な場所であった。      | いいえ |
| ・暑かった（寒かった）。     | いいえ |
| ・野次馬が多かった。       | いいえ |
| ・現場周辺の地理に不案内だった。 | いいえ |

h. 足場が悪かった。

|                  |     |
|------------------|-----|
| ・足元が躓いたり滑りやすかった。 | いいえ |
| ・足元の強度が不足していた。   | いいえ |

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

|                                     |     |
|-------------------------------------|-----|
| ・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）           | はい  |
| ・指示内容に誤り・偏りがあった。                    | いいえ |
| ・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。） | いいえ |

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

|                |     |
|----------------|-----|
| ・隊員の連携が不十分だった。 | いいえ |
| ・隊員が不足していた。    | はい  |

○その他

l. その他の理由があった。

|     |
|-----|
| いいえ |
|-----|

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

慣れや無知からの危険の排除。安全管理に対する隊員間の意識及び知識の向上。

○装備・資機材の対策について

展帳計の指針の確認を実施する回数及び確認する時間の明確化。

○活動環境の対策について

安全管理員の適正配置の徹底。

○指揮・情報伝達の対策について

